BEST AVAILABLE COPY

(Translation)

Citation C: A microfilm of Japanese Utility Model Application No. 147554/1982 (JP U.M. Laid-Open Publication No. 52422/1984)

Title: Attachment Holder for Piezoelectric Level Sensor

The reference numbers 6 and 7 indicate packings for preventing a liquid leakage.

52422 公開実用 昭和 59-



i9 日本国特許庁 (JP)

11 実用新案出職公開

12 公開実用新案公報(じ)

昭59-52422

51 Int. Cl.3

識別記号

庁内整理番号

43公開 昭和59年(1984)4月6日

G 01 F 23 22 G 01 D 11 30 G 01 F 23 00

Z 7355-2F 7119-2F

7355-2F

審査請求 未請求

54 圧電式レベルセンサの取付け保持具

名古屋市瑞穂区高辻町14番18号

(全

頁)

日本特殊陶業株式会社内

红実 順 昭57-147554 22出

九出 願 人 日本特殊陶業株式会社

願 昭57(1982)9月29日

名古屋市瑞穂区高辻町14番18号

72考 案 者 井谷淳

明 福 害

1.考案の名称

圧電式レベルセンサの取付け保持具

2. 実用新案登録請求の範囲

3.考案の詳細な説明

本案は検知すべき液体を収納したタンクのね じ孔に、圧電式レベルセンサを取付け保持する



公開実用 昭和59-52422

ための装置に関し、目的とする処はレベルセンサ をタンクに対し極めて容易に取りつけることので きるものを提供せんとするにある。以下図面にお いて説明する。

第1図は検知すべき液体Wを収納するタンク T の要部壁面に設けたねじ孔が、本案に係る取付け 保持装置Hを介して圧電式レベルセンサPを装着 した態様を示したもので、前記レベルセンサPは ステンレス等の耐蝕性金属よりなる細管1と、そ の下鳩面に液密的に接合された感知要素2と、前 記金属細管1の上嶋面に一嶋が嵌着された外部引 出し用ケーブル3より構成されている。前記感知 要素2はステンレス等の金属薄板21の内面に、 圧電振動子、ここでは一面に励起電極22a、帰 運電極 2 2 b を他面に共通電極 2 2 c をそれぞれ 具えた三端子型構造をなす圧電振動子22を一嶋 に貼着した構成からなっている。また前配ケープ ル3は感知要素2の圧電振動子の励起電極22a と帰還電極22bに接続する一対の導線3a. 3 b とこれら導線 3 a , 3 b を電波シールド的に





被覆し細管 1 を介して振動子の共通電極 2 2 c と接地接続する金属綱組 3 c とを具え、該ケーブル 3 の他端を制御系回路装置(図示しない)まで延設し、同回路装置に含まれる増幅器の入力端と出力端との間に振動子 2 2 を正帰還となるよう接続してなる。

公開実用 昭和59 - 52422

41a, 41bに分割し、各片の末端にテーパ状 突起 4 3 a , 4 3 b を設けた態様とし、またプシ ュの態様を前記ファスナ4の鍔4a弾性係止手段 4 b と嵌合する異径の内面 5 a と、外面にタンク のねじ孔Sに適合し得るねじ寸法をもった雄ねじ 5 b と、締付け用六角頭部 5 c を有するものとし、 ファスナの弾性係止手段 4 bのテーパー状突起 4 3 a , 4 3 b がプシュの径小内面を片 4 1 a , 4 1 b を内側に変形しつつ挿通し(第 3 図参照) ファスナの鍔4aがプシュ5の径大内面に嵌合し 終えると同時に突起43a,43bが貫通し終わ り、片41a,41bの弾性復帰により突起 43a、43bがブシュの下面に係合してレベル センサPを保持する構造としたが、ファスナの弾 性係止手段4bの形態は上記に限らず要はプシュ 5への押し込みにより弾性的に結合するものなら なんでもよい。

この種、圧電式レベルセンサは下端面に設けた 感知要素を常に発振状態に保持するが、タンク内 の液体を所定レベル以上あって前記感知要素に接



A-IIIS

然るに本案は上述した通りレベルセンサの上端 部に弾性係止手段を有するファスナを嵌着し、タ ンクのねじ孔にプシュを螺装した構成をなし、レ ベルセンサ取付けにさいしてはファスナをプシュ に直線的に差し込むだけのワンタッチ操作で取付 けを完了することができるから従来に比べ取付け 作業が極めて簡単になり、また回動を伴わないの でケーブルに振り応力を加えることがまったくなく断線等の事故を防止し、更にレベルセンサの取付けに締め付け工具を要しないので内燃機関のような狭隘な所でも確実に取りつけることができるという利点がある。

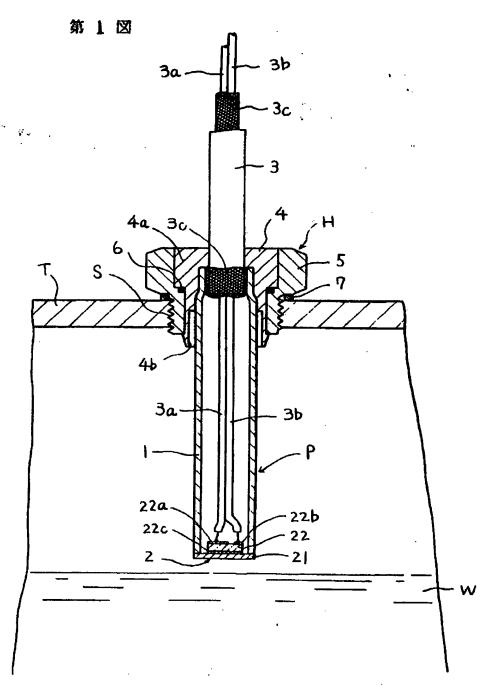
4. 図面の簡単な説明

第1図は本案に係る装置を用いて圧電式レベルセンサをタンクに取付けた態様を示す概略断面図、第2図AとBは本案装置を構成するファスナとプシュの斜視図、第3図はレベルセンサの上端部に嵌着したファスナを、タンクに繋装したブシュに差込み途中の態様を示す概略断面図である。

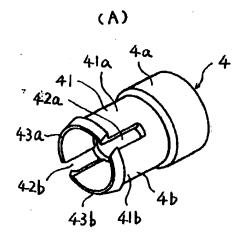
- 1 … … 金属細管、2 … … 感知要素、
- 21……金属薄板、22……圧電振動子、
- 3 … … 外部引出し用ケーブル、
- 4 ··· ··· ファスナ、 4 b ··· ··· 彈性係止手段、
- 5 … … ブシュ、 P … … 圧電式 レベルセンサ、
- H……取付け保持装置、T……タンク、
- S……ねじ孔、W……液体

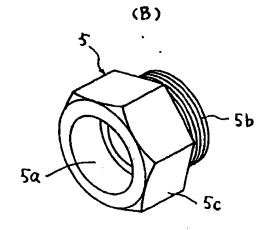


公開実用 昭和59-52422

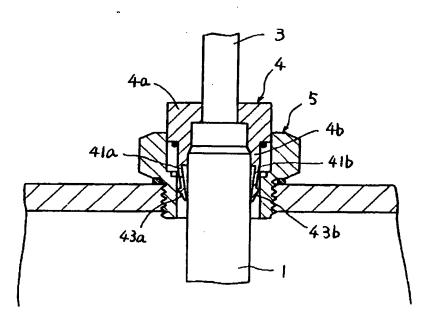


254





第3図



255

実用海案登録出願人 日本特殊陶業住式会社 代表者 小 川 修 次 実開59 5 5

公開実用 昭和59一52422

手 統 補 正 書(自発)

昭和57年11月 4日

特許庁長官

若 杉 和 夫 殿



- 1. 事件の表示
- 昭和57年実用新案登録願 第147554号 2.考案の名称

圧電式レベルセンサの取付け保持具

3.補正をする者

事件との関係 実用新案登録出願人

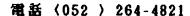
住 所

郵便番号 467-91

名古屋市瑞穂区高辻町14番18号

(454) 日本特殊陶業株式会社

代表者 社長 小川修次





明細書中、考案の詳細な説明の欄。

5.補正の内容 別紙の通り



明細書 4 頁第第 1 7 行目と第 1 8 行目の間に下記の語句を挿入します。

「なお、6及び7は液漏れを防止するパッキング である。」

以上.



This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning Operations and is not part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:
BLACK BORDERS
☐ IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
☐ FADED TEXT OR DRAWING
☐ BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING
☐ SKEWED/SLANTED IMAGES
☐ COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS
☐ GRAY SCALE DOCUMENTS
☐ LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT
☐ REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY
OTHER.

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.